農業振興公社・中山間地域の農業法人等との意見交換会（記録）

日時：令和 4 年 11 月 18 日（金）
午前 10 時～11 時 35 分
場所：市役所木田第一庁舎　第 2 委員会室

○　出席者

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］
（公財）浦川原農業振興公社
（公財）大島農業振興公社
（公財）牧農林業振興公社
川谷もより協議会
農事組合法人おかざわ
（公財）清里農業公社

［上越市議会］
渡邉隆副議長
［農政建設常任委員会］
丸山章委員長
橋本洋一副委員長
こんどう彰治委員
武藤正信委員
飯塚義隆委員
波多野一夫委員
山田忠晴委員
宮川大樹委員
［広報広聴委員会］
司会：髙橋浩輔委員
記録：木南和也委員

１　開会の挨拶

上越市議会　副議長　渡邉　隆

２　テーマ説明・参加議員紹介

農政建設常任委員会　委員長　丸山　章
「農業経営における課題について」

３　意見交換会

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］

・　兼業農家が 7 割を占めていたが、後継者がおらず、別の担い手の方に任せているが、それにも限度がある。

- ため池があるものの不整備の田んぼは水の便が悪く、水の管理が大変で、今後は耕作を諦めるほ場も出てくると思う。
- 市の補助事業を活用してソバの作付をしているが、イノシシやシカの被害が問題である。市の電気柵設置の補助事業は、ソバは対象外とされている。ソバが、電気柵の補助対象になったとしても、高齢化で電気柵を張るのは大変で、張ったからといってイノシシなどがほ場に入らないわけでもない。
- 燃料や資材の高騰が農家へダメージを与えており、今まで頑張ってきたけど、これを機にやめようとする人がいる。話し合って守れる農地は守っていきたいが、それにも限度があって、なかなか収益につながらない。
- 水稲がメインであるが、今後は園芸作物にもチャレンジしていかなくてはならない。
- 後継者の育成をどうしたらいいかわからない。昔は、80 歳は田んぼにいなかったものだが、今は違う。それによって、農機具による事故が発生し、それを機に農業をやめてしまった人もいる。
- 山間部の未整備の田んぼなどは、年々荒れてきている。
- 高齢化により 70～80 代で農作業をしている。
- 肥料代が約 2 倍に高騰し、経営を圧迫している。
- 用水路を完備していない農地は手がかかるため手放した。
- 花苗を生産しており、それを高田城址公園に植えるために都市整備課に買ってもらって大変助かっている。
- 公社としての経営が大変厳しい。若干の赤字を出しているが、市道の除雪で収益を得ている。
- 中山間地域等直接支払制度の第 5 期対策が終わったときに、今度は公社からやってもらいたいと言われているが、今後の稲作を考えるとかなり厳しい。
- 中山間地域の農業が継続できるように、議会にも尽力してほしい。
- 人口減少が最大の問題であり、10 年以内に地域が消滅する可能性がある。農業以前に暮らしていくこと自体できない。
- 農業をしていれば人はそこから離れないので、なるべく多くの人が、兼業でもいいから地域で暮らしていけるように応援してほしい。
- 若い人たちは骨を埋める覚悟で移住しないし、企業の場合も 3 年で転職することが多い中で、4～5 年だけでも農業をやりたいという人を取り込むような仕組みを作っていかないとならない。
- 少しでも高く売れる販売先の構築が必要だ。口コミが広がる場所ができるといいと思う。
- 若い人たちは、憧れをもって就農するが、イメージとのギャップで苦しむ人もいる。若い人たちが悩みを打ち明けられる場所が必要。

・　冬期間の仕事がない。屋根雪の除雪隊を結成しようと考えている。
・　産業政策として農業を守っていくのか、地域政策として農業を守っていくのかという視点がある。
・　清里区は、昭和の時代に 500ha の農地を 500 件で担っていたが、平成の時代は 12～13 件で担っていた。それらの法人と手を組んで、各々がサテライト化して地域を守っていこうということで、清里一農場計画を考えている。
・　生産資材の高騰に対して、共同で購入するなど協力しながら対応している。今後、より一層連携を強めたい。
・　人は欲しいが 1 年間雇うことができないので、特定地域づくり事業協同組合を立ち上げ、法人間の人材の共有や都会から人を連れてくるなどの取組を今年から始めた。

［こんどう委員］
・　吉川区川谷で兼業農家をするとなると、インフラの整備が必要だと考える。山間部に移住・定住していただくために、市に要望したいことはあるか。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］
・　確かに川谷は道が悪く、命がけで運転しているが、最近は冬の除雪も改善され、慣れてしまえば暮らすことができる。
・　雪下ろしをしなくてもいい住宅が整備されると、移住者のハードルが下がるのではないか。初めは便利な住宅に住んで、気に入れば空き家を改修して住むような仕組みを移住先進地では取り組まれている。現在、地域で空き家をキープし、それを管理した上で、移住者に渡すということに取り組んでいる。

［こんどう委員］
・　中郷区岡沢のほ場は比較的条件が良いにも関わらず、後継者不足が生じているとなると、他の地域にとっては更に深刻な問題だと思う。市にお願いしてもうまくいかないと思うが、どうしたらよいのか。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］
・　若い人が法人に入ってくれても、イメージとの違いなどから辞めてしまう。地域外の人でも法人に定着してくれればベストで、それから岡沢に住んでくれるという形が、解決への近道だと思う。農業のあり方を市でも推進してくれれば、細くても長く農業が続いていく。

［飯塚委員］
・　耕作しやすい農地が必要と思われるが、ほ場整備をしていない理由は、国の補助事業で採択してもらえないからなのか、地域の実情によって手が挙げられないからなのか。
・　冬期間の収入源はどのようなものがあるのか。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］

・　収入の約 3 割弱が、道路除雪と水道設備の草刈りで、農業だけでは厳しい。
・　除雪の他に消雪パイプの管理を請け負っている。
・　葉物野菜や薪を作っている。1 年中従業員を雇うことは頭の痛い問題である。
・　現在、ほ場整備をする方向で話し合いを行っているところだが、地域が一枚岩になることは難しい。
・　中山間地域の誰も担わなくなった田んぼを、法人を立ち上げて守っていたが、今は守り切れていないのが現状。平場で余力のある農家に、中山間地域の田んぼもとお願いすると、条件が悪いので拒否されてしまう。そこで、平場の条件の良い田んぼと、中山間地域の田んぼを組み合わせてお願いすることで、なんとかやってもらっている。
・　現在の基盤整備の条件に、園芸を 2 割することがあるが、例えば平場で基盤整備をする場合に、中山間地域の基盤整備も半分くらいやってくれれば優先順位を上げるなどの条件があってもいいのではないか。
・　中核となる農業法人がある集落は、運営していくためにほ場整備を進めているが、他の集落はほ場整備の計画段階から工事完了まで時間が経てば、自分たちは生きていないということで話が止まってしまう。平場には農家がたくさんいるし、条件が良ければ中山間地域の農地も担うという若者もいるので、集落でほ場整備を進めるやり方ではなく、違う手段を検討しなければならない。
・　ほ場整備の償還金はとても負担で、山間部は高齢化の中で進めるのは難しい。

［こんどう委員］

・　中山間地域の棚田は、自然のダムであるから、行政でもっと手厚く補助すべきと考えている。平場に比べて割に合わないのは当然である。皆さんも国や県に、どんどん要望してほしい。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］

・　基盤整備を行ったが、イノシシなどの被害で水路などが痛んできている。国や県の事業の基盤整備をしなくても、水路や農道を市が整備すべきだ。最低限でも修繕する支援があれば活用したい。
・　近年は、突然集中豪雨が降る場合があり、畔が崩れることがある。畔を修繕する補助金は、アメダスで観測されていないと補助対象にならないことがあり、その時は 40 万円かかった。かゆいところにも手が届く支援体制の整備が必要だ。
・　用排水路の維持管理についても、少しくらい補助があればいいと思っている。
・　多面的機能支払交付金は、維持修繕、長寿命化、どちらも縛りが多くて使い勝手が悪く、上手く使えないので、改善してほしい。

・　災害の場合、田の補修費用が 20a で 40 万円程度がかかる。現場に合わせた支援をお願いしたい。
・　保倉川の水利権について、渇水時に保倉川からポンプで水を汲み上げたところ、土地改良区が来て、赤紙（警告）が貼られたので、何とかしてほしい。

［山田委員］
・　ソバ以外を栽培してはどうか。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］
・　生産から販売までは、生産組合としてつながらない。ソバは、短期の栽培である。ソバの栽培は難しいので、それ以外の栽培を考えていかなくてはならない。

［山田委員］
・　中山間地域では、非農家も含めて、農地を守る活動をしているのか。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］
・　どの地域も多面的機能支払交付金を活用して、守る活動を行っているはずだ。中山間地域では、皆が農業に携わっているので、皆で作業に取り組んでいる。また、ボランティアもいる。
・　土地を手放した方々には、集落の普請共同作業には必ず来るように念書をもらっている。町場に出て行った人たちにも声をかけている。花を植えたりする作業も、地域全体で取り組んでいる。

［宮川委員］
・　地権者に対する要望などはあるか。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］
・　段階を踏んで相談してもらいたい。田んぼは個人の財産であるが、共有の財産という側面もある。地域外の人に田んぼを売ってしまって、共同作業ができなくなるケースがあった。

［丸山委員長］
・　燃料や肥料の高騰があったということだが、必要な支援や具体的な現状を聞きたい。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］
・　農業ばかり支援してもらっていいのかという声もある。
・　燃料高騰に関して、なるべく燃料を使わないように工夫している。肥料の値上がりについては、補助してほしいと感じている。
・　林業から農業に転身した当初は、農業は助成が多く良いと思った。しかし、農業は肥料などお金が多くかかる。給料も上がる仕組みになるといいと思う。
・　農業をやりたい人が他の地域から来た時に、農機具を貸し出すなどの農業未経験者でも農業ができる仕組みがあるといい。

・　昨年は 330 万円、今年は 430 万円かかり、上半期で 100 万円増えた。燃料だけでも 200 万円違う。資材は、昨年は 800 万円、今年は 1,200 万円かかり、400 万円上がった。コメの値段は、農業資材費の上がった分をすぐに転嫁できない。業務用のコメは上がっていない。業務用米が上がっていないので、さらに厳しい。

・　体力のない法人が、倒産する恐れがある。作戦を練らないといけない。肥料や農薬に若干の補填をしてほしい。

［丸山委員］

・高く売れる販売先の確保について、具体的に聞きたい。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］

・　ホームページやチラシの援助を各農家にした。ホームページを作ったからといって、買ってくれるとは限らない。お米の祭のような仕組みを（イベント）を作ればいいと思う。

・　農業経験が全くなくても農業を始められる仕組みが必要。トライアルでもいいので、そのような仕組みづくりの検討をお願いしたい。

［丸山委員］

・　国の補助事業のメニューもたくさんあるが、何か他に要望はあるか。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］

・　5 割削減の設計はコシヒカリだ。コシヒカリベースでなくて、補助事業のメニューを他の品種にも広げてほしい。

［渡邉副議長］

・　どのくらいの所得があるのか。

［農業振興公社・中山間地域の農業法人等］

・　高卒で 18 万円。地元の人たちが出てきたときは、時間給 1000 円。年齢給、年次加算がある。資格手当は 100 円。

［渡邉副議長］

・　条件が分かれば、関わることが増えるのでは。人材バンク的なものを共有できればいいのではないだろうか。

４　閉会の挨拶

農政建設常任委員会　副委員長　橋本　洋一